

て、御算用方政人をして草稿を作らしめ、右筆を招きて淨書せしめた。この帳は正保三年・寛文四年・貞享元年・元祿十五年・正徳元年・享保二年・延享三年・寛政元年・享和三年・天保十年に製作進達せられ、正保・元祿・天保には領内の繪圖をも添付した。

ゴウソクメイギシヨウ 郷村名義抄 一册。加越能郷村名義抄とも、村名由来書ともいふ。元祿十四年領内に令して、村邑の名義濫觴を書上げしめたものである。

コウダ 向田 鹿島郡能登島庄に属する部落。能登名跡志に、『向田村に昔般若院として大寺ありし。その礎・踏段石杯其儘あり。其外釋迦堂・愛宕杯として地名残り。今一向宗十一ヶ寺は、過半教院成しを改宗ありし也。』とある。

コウダガハ 向田川 鹿島郡能登島の向田から海に入る小流である。

コウダシヨウ 向田城 鹿島郡能登島なる向田領の城・端といふ所は、幅一〇米長八〇米許海に突出し、その中に二〇米四方許の平地がある。地方人はそれを城跡というて居る。

コウダシンメイシヤ 向田神明社 鹿島郡向田に在つたが、今伊夜比咩神社の相殿となつた。式内等舊社記に、『向田明神社、向田村鎮座。古代棟札多傳來。舊社也。』といひ、貞享二年の由来書には、『島八ヶ向田神明宮初不知。造立は嘉元二年長谷部宗信棟札云々。』と記する。

ゴウタニガハ 郷谷川 源を能美郡大倉岳に發し、尾小屋及び觀音下に於いて支流を併せ、又岩上にて動山より發し西俣を貫通する

西俣川を入れ、布橋の下流に於いて三谷・池城より發する支流を容れ、金平を貫通し、大野に至り大杉川を併せて梯川に注ぐ。流程一四軒。

コウチ 光智 ↓フクシユウコウチ 福州光智。

コウチ 廣智 ↓ヒヤクエイ 百微。

コウチ 小路 珠洲郡正院郷に属する部落。

コウチヨウ 高約 ↓ダイギョウコウチヨウ 大崎高約。

ゴウチヨウ 臺登 白山本宮の長吏。三宮古記に正和五年三月權律師として白山長吏に任じたとあり、又文保二年十二月權少僧都で長吏に還補したが、衆徒叙用しなかつたともある。

ゴウチヨウ 郷帳 ↓ゴウソクンタカツジチヨウ 郷村高辻帳。

コウチヨウツウラン 皇朝通覽 四十五卷。加賀藩士豊島毅が、文久三年以降幽閉五十年に亘つた間に著したるもの。神武天皇から後醍醐天皇に至る皇朝の事蹟を記し、且各名を正したる論説を加へてある。毅は尙筆を繼がんとしたが、偶明治維新に會して止めた。明治十年石川縣權令桐山純孝を経て、右大臣岩倉具視から乙夜の覽に供した。

コウチヨウヒヤクダイツウリヤク 皇朝百代通略 前出齊廣が津田鳳脚・渡邊栗・長井在寛等の儒臣に命じて編纂せしめたもので、齊奏の代に至つて略成つた。その稿本今存するもの百餘冊ある。

ゴウツ 江津 石川郡河内庄に属する部落。加越能舊跡緒に、『江津領の内に寺品と申地有之。爰にも法會寺と申寺有之由。』とある。

コウテン 稔天 ↓マンケイコウテン 滿圭拾天。

ゴウトイシ ごろと石 石川郡熊走の河畔から出る石材。安山岩質凝灰岩で、帯綠色石基中に、帯紫色礫状の角閃石礫物質を混じ、質は脆い。

コウドウ 光導 又光道に作る。享和三年

江沼郡野田の農家に生まれ、十八九歳にして大聖寺町淨土宗松縁寺の徒弟となり、動橋川上流荒谷の巖窟に入りて修行し、後那谷村三光院に住し、念佛の行者として傳へられた。晩年自坊に小屋を構へて老癯の牛馬を養ひ、明治十四年二月二十一日七十九歳を以て歿した。愚鈍安心念佛鈔一卷・道歌集一卷がある。

ゴウトウツカ 強盜塚 越登賀三州志に、天正五年五月長綱連が穴水城を圍む爲、強盜塚に陣したとあり、又長氏家譜には同六年八月長連龍が越後の諸將と強盜塚等に戦つたとある。強盜塚は鳳至郡であらうが、今所在は明らかでない。

ゴウトウフククレイシカイ 籠頭服忌令私解 二册。湯淺庵所著。服忌の請け方、及び種々錯雜した續柄にて容易に辨別し難きもの服忌方などを註解したものである。

コウトクイン 高德院 加賀藩前田利家の法號。詳しくは高德院桃雲淨見大居士。コウトクコウオンブコウシヨ 高德公御武功書 一册。巻初に『利家様御代之義亡父又兵衛覺覺並口上之通番附申候。』と端書して、前田利家之武功及び晩後の事情等を記し、終に『右御守に付書附指上申候以上。延寶二年十月晦日村井又兵衛、横山志願殿。』とあり、

大聖寺の藩臣村井長時が、前田綱紀の諮問に應じて父長明の家傳を上申した覺書である。

コウトクコウゴネンビヨウ 高德公御年表 二册。有澤貞庸撰。前田利家の年表である。

コウトクジ 光徳寺 金澤宗叔町三番丁に在つて、眞宗東派に属する。貞享二年の中緒書に、明徳三年開基觀行坊之を河北郡木越村に建てたが、元和六年六代玄順の時同郡二日市村に移轉し、七代慶順の時慶安四年金澤六枚町に再轉したとある。昭和十三年更に今の地に移つた。

コウトクジ 光徳寺 河北郡八田に在つて、眞宗東派に属する。

コウトクジ 光徳寺 鹿島郡七尾に在つて、眞宗西派に属する。寺記に、文永十一年宗性初めて河北郡木越に建てたが、天正八年佐久間盛政の爲に追はれて鳳至郡黒島に移り、次いで鹿島郡七尾城下に移り、更に府中村に移つた。然るにその地海に近かつた爲、天保十二年また所口の今の位置に轉じたといふ。能登名跡志には、『光徳寺は西方一向の院家也。一國の録所にて、町中に在り。』と見える。コウトクジ 興徳寺 金澤笹ヶ町に在つて、金昌山と號し、日蓮宗に属する。貞享二年の由来書に、當寺は羽咋郡龍谷妙成寺の末寺で、正保元年開山秀閑日受が寶達山に建てたものであるが、その後金坑が衰微したから、慶安四年金澤に出で、三寶寺に借地して草庵を結び、次いで延寶二年今の寺地を得て再興したとある。寺藏の鬼子母神は、長一五〇櫃の木像で、諸人の信仰する所である。コウトクジ 興徳寺 鳳至郡三井郷に属する部落。興徳寺が在つたによつて名づける。